

柳田国男

2015 年本試

問 8 自己や，社会に生きる人々の有り様をめぐって様々に思索した，近代以降の思想家の説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

27

- ① 西田幾多郎は，主観と客観を対立的に捉える哲学的立場を批判し，思索や反省以前の純粹経験を考究の出発点として，主観のみが確かであることを立証する『善の研究』を著した。
- ② 柳宗悦は，朝鮮陶磁器と出会ったことで，名のある芸術家が器や布などの日用品を作ることの素晴らしさに気づき，生活そのものを美的にすることを目指す民芸運動の推進者となった。
- ③ 柳田国男は，共同体に生きる無名の人々を常民と呼び，文字に残されない生活様式や祭り，伝承，あるいは祖霊信仰のなかから，彼らの思想を掘り起こそうとする民俗学を確立した。
- ④ 丸山真男は，新旧を問わず様々な考え方が雑居する日本の思想状況を批判し，文学や芸術に表現された直観を，哲学的思索によってつかみ直そうとする近代批評という分野を確立した。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 8	27	③	3

2008 年追試

問 3 日本人の先祖の霊の行方について論じた人物に、民俗学者の柳田国男がいる。先祖と子孫の関係についての柳田の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

16

- ① 先祖の霊は、住み慣れた集落近くの山に留まっているので、子孫は正月やお盆に自分の家に先祖の霊を招いて、共食の儀礼を行う。
- ② 先祖の霊は、この世から遠く離れた浄土に往生して子孫を守護しているので、子孫は仏壇で先祖を供養することが務めである。
- ③ 先祖の霊は、国家の神として、子孫ばかりでなく国民全体からも祀られているので、子孫は神社に行けば先祖に祈ることができる。
- ④ 先祖の霊は、遠方から「まれびと」として現れて幸福をもたらすので、子孫はこれと呼び寄せる祭礼を行って来訪を待ち望んでいる。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 3	16	①	3

2004 年追試

問 6 柳田民俗学に関する説明として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。

26

- ① 日本古来の民俗の姿を、文学的直観をもとに論じ、共同体外部からの来訪神（まれびと）の性格を明らかにしようとした。
- ② 日本文化の原風景として、稲作定住農耕民の生活習慣を想定し、その由来を宗教的側面を踏まえて明らかにしようとした。
- ③ 知識人の書き残した文献にではなく、無名の庶民の日常的習慣や儀礼の中に日本文化の真の姿を探求しようとした。
- ④ 日本全国の民間伝承を筆録する運動をすすめ、怪異譚^{かい い たん}や民話を分析して、庶民の精神生活の実相を明らかにしようとした。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 6	26	①	3

2003 年本試

問 3 柳田国男によると、死者の靈魂に関して「常民」はどのように考えていたか。
最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 21

- ① 死者の靈魂は、生前の善悪にかかわらず、みな等しく暗黒の 黄泉^{よみ}の国に行く。
- ② 死者の靈魂は、^{おおくにぬしのかみ}大国主神が支配するという ^{めいふ}冥府に属しつつ、この世を見守る。
- ③ 死者の靈魂は、空に昇り雨として降り、食べ物となって再び人の体内に宿る。
- ④ 死者の靈魂は、村落周辺の小高い丘や森に留まり、一定期間を経て神になる。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 3	21	④	3

2002 年追試

問 7 日本の「家」意識に関する柳田国男の研究の記述として最も適当なものを、
次の①～④のうちから一つ選べ。

8

- ① 日本各地の村落社会に赴いて、「家」意識を支える祖先崇拜を調査した。
- ② アジアの「家」意識をアラビアとヨーロッパの家族意識と比較した。
- ③ 「家」意識は儒教とともに日本にもたらされたことを歴史的に解明した。
- ④ マルクス主義の立場から「家」意識を経済の発展段階のなかに位置づけた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 7	8	①	2